



◆八木山地区小地域福祉ネットワーク研修会 第一部
(令和6年2月15日)

小地域福祉ネットワークは地域社会の現状に対し、住民同士で見守りや声かけ、助け合い、仲間づくりなどの活動を意識的に行い、身近な地域での課題解決や住みよい地域づくりを行っているという取り組みです。

八木山地域では、互いを気遣う気持ちや関係を更に広げるために、前回までボランティア活動を行っている団体や組織を紹介してきました。今回は、第一部として八木山で福祉活動をされている三つの法人や団体を紹介しました。



①八木山つどいの家(社会福祉法人 生活介護事業) 太白区八木山本町1丁目41-2 022-229-0666

「どんなに重い障がいがある人も地域で差別されることなく、いきいきと自立した生活ができるように、自己実現の場を保障し支援する」を法人理念に掲げ、主に知的障がいのある方々が、日中通う場として平成元年より事業を行っています。

現在15名の方々が通い、八木山地域の散策や地域イベント参加、地域清掃、室内での作業品づくり、アート作成などを通して、一人ひとりの想いを大切に自己選択、自己決定できる支援を行っており、八木山地域の協力もあり、地域と一緒に活動する機会も増えています。



tsudoinoie.or.jp



高杉和豊さん

②希望の星(就労継続支援B型事業所)

太白区松が丘25-2 022-228-5060



大豆まるごと豆腐



「働き方を生み出す」希望の星:私たち「希望の星」は視覚障害者が働く就労継続支援B型事業所です。

①「働きたい」という視覚障害当事者の声から平成27年10月に開設し、8年経ちました。

②現在、27人の利用者と18人の職員とで、日々仕事に取り組んでいます。

③運営団体の認定NPO法人ばさーる太白社会事業センターは「ニーズから出発する！」を合言葉に多様な支援活動に取り組んできました。

④希望の星は、その合言葉をモットーに、利用者のやりたいこと・できること・やってみたいことなど一人一人の得意分野ややりたいことを活かした働き方を生み出しているのが「希望の星」です。



千田裕子さん

③ふたぼの会(食事サービス)

太白区若葉町20-7 022-229-2585

長寿時代に入った現在(いま)、明るい地域社会づくりといつまでも楽しく暮らしつづける方々を持続的に支援するために、家庭の味を大切にした配食活動を八木山地区で30年近く行っています。

支援活動は仙台市の助成を受けており、週5回、月・水・金の昼食と火・木の夕食を1食550円でお届けしています。調理ボランティア、運転・配食ボランティアには回数に応じた活動費の支給があります。

お弁当は食べやすい手作り家庭料理で、栄養バランスもしっかり考えられています。ご飯は粥、軟らか飯にも対応し、主菜(肉・魚)の変更の相談も可能で、主菜・副菜の刻み食、アレルギー食にも対応します。

旬の野菜をたっぷり使用し、季節にあった行事食で食事に彩りを添えます。

八木山からなくしたくない食事サービスの会ですが、近年、調理・運転・配食の各ボランティアが不足しており、事業継続が困難になることを懸念しています



ボランティア急募！！



市橋章子さん

◆八木山地区小地域福祉ネットワーク研修会 第二部 (令和6年2月15日)

「春日八郎」って誰、何それ？という世代はさて置いて、小地域福祉ネットワーク研修会はいよいよ第二部に突入。

第一部とは趣きをガラッと変えて、〈歌のアルバム〉ピアニストの大塚明美さんを招いて、「昭和のメロディを懐かしみ、かつ思
いっきり歌ってもらおう会」を開催しました。

「長崎の女(ひと)」(春日八郎)、「知床旅情」(森繁久彌)、「津軽海峡冬景色」(石川さゆり)、「高校三年生」(舟木一夫)、「私の城下町」(小柳ルミ子)、「愛燦燦」(美空ひばり)、「ふるさと」(五木ひろし)・・・など、用意された歌を、軽妙な大塚さんの話に爆笑しながら、腹の底から歌ってもらいました。

最初は戸惑っていた参加者の皆さんでしたが、大塚明美さんの話術と素晴らしいピアノの音色に魅せられ、かつ、途中からマイクで歌っていただいた参加者もあり、大いに盛り上がりました。

市民センター第二・第三研修室から「あかいゆうひが~~~~
♪♪」と大合唱が聞こえるさまは、参加者をご自分の高校生時代に思いを馳せたようで、八木山全体が一瞬若返ったように感じました。
いいですね、昭和の歌は！！

歌のアルバム
〈ピアニスト〉
大塚 明美さん



◆~大盛況…みんなで楽しめば笑顔満開~

「八木山みんなのカフェ」は皆さんの近くに出向きます



八木山地区社会福祉協議会(社協)、八木山地区民生委員児童委員協議会(民児協)、八木山地域包括支援センター、東北工業大学及び八木山市民センター共催で「八木山みんなのカフェ」が開催されています。

八木山みんなのカフェ ことはじめ

平成30年度に地域の交流拠点(場)としての「サロン」開設のアイデアを煮詰め、令和元年度より、名称を「八木山みんなのカフェ」と称して、開催しております。

繁忙期を除き、月に1回開催を目標に、市民センターを会場としたカフェと、各町内会に出向き行う移動カフェを組み合わせ年間8回程度実施の計画を立て実行しています。



第6回 ~みんなでポッチャ~

2024年辰年のスタートは、1月20日(土)10時から本町2丁目の松風公園集会所を会場に「みんなでポッチャ」を楽しみました。新年お年玉でお汁粉を頂き大好評でした。



第7回 ~スマホ教室~

2月3日(土)10時から、松ヶ丘集会所を会場に「スマホを友に~in松ヶ丘~」と題し、山口茂氏(東北工業大学)を講師にスマホのノウハウを学びました。東北工業大学の学生さんたちを交え、若いも若きも女性も男性も、初めてでも楽しめる交流の場となりました。



第8回	3月16日	土	10:00~12:00	市民センター (研修室)	スマホ交流会:講師(山口先生) 仙台南高校ボランティア	地域の方 20名
-----	-------	---	-------------	-----------------	--------------------------------	----------

◆令和6年2月28日「認知症」についての研修会が開催されました

(八木山地域包括支援センター 八木山地域圏域ケア会議)

認知症特集

2月28日(水)、八木山圏域の町内会、民生委員、地区社協、介護事業所、商店会や企業の皆様を対象に、「令和5年度八木山地域圏域ケア会議」を八木山市民センターで開催し、総勢45名の方にご参加頂きました。

当日は、仙台市の認知症疾患医療センターの一つである「いずみの杜診療所」より、地域連携室室長の川井丈弘様と、実際に認知症の診断を受けている当事者の方にお越し頂き、「本人の視点を大切にしたい認知症を抱えるご本人との関り」と題して、講話を頂きました。

「認知症」はあくまでも特別な病気ではなく老化の一種であり、誰もがなる可能性があること、また、あくまでも認知症という脳の老化を抱えたひとりの「人」として関わることの大切さを教えて頂きました。



～高齢者の20%が認知症！～

平成29年度高齢者白書によると、2012年は認知症患者数が約460万人、高齢者人口の15%という割合だったものが2025年には700万人、5人に1人、20%が認知症になるという推計もあります。認知症の要因は加齢にあることから、超高齢社会で暮らす私たち誰もが認知症になりうる、他人ごとではないということです。

(※高齢者=65歳以上)

認知症の人は普通の人です！



認知症の当事者の方からは、「認知症にならないように…と食事も人一倍気をつけていたし、運動も頑張っていた。だけど認知症になってしまった」と、診断を受けた際の衝撃や実際の体験についてお話頂きました。「予防よりも備えが大切」というお話を頂き、「認知症にならないためにはどうすればよいか」という点に目を向けるのではなく、「認知症になっても大丈夫」と思えるような備えをしておくことに目を向けることが大切ということを改めて学ばせて頂きました。

「認知症」は特別な病気ではない！

人が年を重ねれば、しわが増えたり、膝や腰が痛くなるのと同じで、老化の一種。その老化がたまたま、「脳の老化=認知機能の老化(障がい)」として、脳の萎縮などがみられるもの。



「に」から「と」へ！ 認知症フレンドリー社会

「その人に、何ができるか」

私と彼ら：サポーター

当事者不在



「その人と、何ができるか」

私とあなた：パートナー

当事者参画

周囲がその人をよく理解すること、障がいを理解し適切な関わりを持つことで症状は緩和されることがあるそうです。「認知症だから…」ではなく、その人自身を見て向き合っていくことができれば、たとえ認知症の診断を受けたとしても、住み慣れた八木山の地域で自分らしく暮らし続けることができる方が増えるかもしれません。「見守り」が「見張り」になっていないか、認知症の診断を受けた方を「困っている人」と見るか「困った人」と見るか。講話の中で出てきたこの言葉で、改めて自分の考え方を見直すことができました。

「その人に何ができるか」から「その人と何ができるか」に視点を変えて、誰もが八木山という地域で安心して生活していくことができるよう、皆様と一緒に考えていきたいと思っています。

「**認知症の人は、急にぱっと認知症になったわけではない。通常の状態と連続しているんだ。だから普通の人なんだよ**」

認知症医療の第一人者、長谷川和夫医師

私たちは、無意識に“認知症の人”と線引きして接していないか。とても大切なことを問われたような気がしています。例えば癌や心臓病になっても、世間はその病人が即ダメ人間になったとは思わない。しかし認知症と診断された場合は、その時点からその人物はもう何も役立たない人間と思われてしまうことだ。病状は悪化するものの、最近はいろいろと症状を抑える薬も出ているのに。

思い当たる節はありますか？

認知症の方に「否定語」を使っていますか？
認知症の人にもそれぞれ理由があるんです！

◆同じことを何度も質問する

さっきも聞いたでしょ。覚えてないの？

◆同じものを何度も買ってくる

もう買わないで！なんでいつも同じものばかり買うの

◆ものやお金を盗られたと思う

盗られてないよ。私が盗るわけないでしょう！

～認知症の人にやってはいけない3つのこと！～

否定する

認知症の人に「否定する」ことは絶対にしてはいけないことです。認知症の人は時には、おかしい言動をとることがあるかもしれませんが、しかしそういった時にも否定をせず、**まずはお話を聞いて相手の想いに合わせる**ことが大切です。

叱る

介護をする側として、「叱る」ことは認知症の人だけでなく他の高齢者に対してもしてはいけません。認知症の人は、今まで出来ていたことがだんだんと出来なくなってきました。しかし**出来ないことを叱るのではなく、出来ることを褒める**ようにして、相手の意思を尊重していきます。

抑制する

認知症の人は、時には多動で徘徊をすることがあります。急に立ち上がって歩いて行ったり、床にしゃがみ込むこともあります。認知症の人がそういった行動をとるときには、何か理由や目的がある場合がほとんどです。単に行動を抑制するのではなく、**「何をしようとしているのか」理由や目的を追求**することが重要です。



「同じ目線のケア」とは！

<公園を歩いていた小さな子が転んで泣き出してしまった。すると4歳ぐらいの女の子が駆け寄り、助け起こすのかと思ったら傍らに自分も腹ばいになり、にっこり笑いかけた。泣いていた子もつられてにっこりした。女の子が起きようねと言うと小さな子はうんと言い、2人は手をつないで歩いていった>

認知症医療の第一人者、長谷川和夫医師

令和5年度 昼食会・サロン・すこやか等助成金実績 (R6, 2, 3現在 単位:円)

項目	延べ人数	助成金額
ふれあい昼食会(7町内会)	222	148,800
昼食会代替(2町内会)	153	39,300
ふれあいサロン	392	39,200
すこやかクラブ	729	72,900
みんなのカフェ	172	22,780
計	1,668	322,980

令和5年度 赤い羽根共同募金報告 (単位:円)

町内会	募金額	町内会 他	募金額
青葉苑	55,000	八木山本町第一	100,000
青山	6,140	八木山本町二丁目	150,000
青山第一	84,000	緑花	90,000
青山二丁目	68,000	八木山団地緑風会	16,780
青山恵	30,000	若葉苑	37,000
恵和町	70,000	町内会計	1,309,937
桜木町	202,850	街頭募金	10,568
さつき	2,000	市民センター内募金	15,455
松が丘	205,667	街頭募金計	26,023
みつば	19,000	八木山地区団体	30,000
八木山八光台	66,000	〃法人団体	63,000
八木山東	107,500	法人・団体計	93,000
		募金合計	1,428,960

ご協力ありがとうございました

～編集後記～

元日に能登半島で大地震が起こり、大変な被害をもたらしました。地震から2ヶ月経ちましたが、現地では困難な毎日が続いています。普段の暮らしが突然断たれた、あの3.11を思いました。できる人が、できることをと募金会からも義援金を送り、仙台市や日赤も支援を惜しまず、被災地を支援しています。一日も早く安心できる生活を取り戻せるよう祈ります。もうすぐ春です。

(連絡先) 大野貴子

